

## 霰粒腫に対するマイボーム腺温存療法

福岡 詩麻<sup>1,2,4</sup>, 有田 玲子<sup>2,3,4</sup>

<sup>1)</sup>大宮はまだ眼科西口分院, <sup>2)</sup>LIME研究会, <sup>3)</sup>伊藤医院, <sup>4)</sup>東京大

【目的】従来、霰粒腫は、切開と搔爬による「切る」治療が主流であったが、最近、マイボーム腺の形態と機能を温存するという観点から、霰粒腫の「切らない」治療が見直されている。今回、霰粒腫に対するマイボーム温存療法を行った症例の経過について検討した。

【対象と方法】対象は、大宮はまだ眼科西口分院を受診した霰粒腫患者51例(男性20例、女性31例、平均年齢 $30.8 \pm 19.6$ 歳(1~86歳))。カルテ記載を用いてretrospectiveに解析した。

【結果】霰粒腫発症後、受診までの期間は0日~1年半(中央値10日)。他院加療歴あり15例、ものもらいの既往あり30例、ものもらいの手術歴あり11例であった。初診時、霰粒腫を $1.2 \pm 0.4$ 眼瞼に $1.4 \pm 1.0$ 個(1~6個)認めた。多発霰粒腫は14例、自壊は8例であった。温罨法29例、リッドハイジーン32例、抗菌薬・ステロイドの点眼・軟膏41例、ステロイド注射11例に施行した。初診の1回しか受診しなかった症例は18例(35%)であった。初診時に認めた霰粒腫は3日間~8ヶ月(中央値5週間)で軽快した。平均観察期間 $2.5 \pm 3.1$ ヶ月中、11例で新たな部位に霰粒腫を発症、4例で同部位に再発を認めた。多発もしくは再発霰粒腫の症例18例中9例で、温存療法により2週間~8ヶ月(中央値6ヶ月)で霰粒腫が軽快し、新たな霰粒腫の発症もみられなくなった。

【結論】多発霰粒腫や再発を繰り返す症例は多いので、霰粒腫に対するマイボーム温存療法は有用であると考えられた。

---

[利益相反 公表基準：該当]有

[倫理審査：承認]有

[動物実験：承認]無

[IC：取得]有